

久木田美枝子教授略歴

1949年7月13日	福岡県戸畑市（現在の福岡県北九州市戸畑区）に生まれる
1974年3月	津田塾大学学芸学部英文学科（英語学コース）卒業
1976年3月	津田塾大学大学院文学研究科英語学専攻修士課程修了
1976年4月	鹿児島県立短期大学専任講師
1977年3月	津田塾大学大学院文学研究科英語学専攻博士課程中途退学
1982年4月	鹿児島県立短期大学助教授
1986年7月	ハーバード大学大学院言語学科客員研究員（～1987年8月）
1986年7月	文部省在外研究員（～1987年1月）
1994年4月	鹿児島県立短期大学教授（～2015年3月）
2015年7月	鹿児島県立短期大学名誉教授

学会及び社会における主な活動

1977年5月	日本英文学会会員（～2006年3月）
1977年6月	語学ラボラトリー学会会員（～2006年3月）
1985年11月	日本英語学会会員（現在に至る）
1987年12月	津田塾大学言語文化研究所研究員（現在に至る）
1987年12月	アメリカ言語学会会員（現在に至る）
1997年12月	日本第二言語習得学会会員（現在に至る）
2002年7月	鹿児島県立短期大学公開講座講師「第二言語習得とバイリンガル教育」
2006年12月	日本通訳翻訳学会会員（現在に至る）
2006年	全国英語教育研究団体連合会研究指導及び助言者（～2008年）
2009年7月	鹿児島県立短期大学公開講座講師「脳科学と英語教育」
2014年7月	鹿児島県立短期大学公開講座講師「英語で伝える日本文化『クールジャパン』をヒントに」

研 究 業 績

<著書>

1. 『ことばの事実をみつめて－言語研究の理論と実証－』, 開拓社, 2011年7月 (共著)

<学術論文>

1. Interrelations between Negatives and Quantifiers (I) – Scope of Negation –, 『鹿児島県立短期大学紀要 (人文・社会科学編)』第27号, 1976年12月
2. Transformational Grammar and the Teaching of English, 『人文』創刊号, 1977年12月
3. プロソディー分析について, 『くろしお』第2号, 1978年3月
4. Interrelations between Negatives and Quantifiers (II) – Based upon the General Survey –, 『鹿児島県立短期大学紀要 (人文・社会科学編)』第29号, 1978年12月
5. A Note on Appositive Relatives (I), 『鹿児島県立短期大学紀要 (人文・社会科学編)』第30号, 1979年12月
6. A Note on Multiple Questions (I), 『鹿児島県立短期大学紀要 (人文・社会科学編)』第32号, 1981年12月
7. Research on *There*-Insertion, 『鹿児島県立短期大学紀要 (人文・社会科学編)』第35号, 1984年12月
8. Research on Adjunction (I), 『鹿児島県立短期大学紀要 (人文・社会科学編)』第40号, 1989年12月
9. On Language Acquisition (I), 『鹿児島県立短期大学紀要 (人文・社会科学編)』第41号, 1990年12月 (共著 久木田美枝子, 土持かおり)
10. On Language Acquisition (II), 『鹿児島県立短期大学紀要 (人文・社会科学編)』第43号, 1992年12月
11. Research on Crossover, 『鹿児島県立短期大学紀要 (人文・社会科学編)』第44号, 1993年12月
12. On the Interpretation of PRO, 『鹿児島県立短期大学紀要 (人文・社会科学編)』第47号, 1996年12月
13. Note on Movement and Control (1), 『人文』第23号, 1999年8月
14. A Tentative Approach with regard to Acquisition and Attrition in Bilingualism, 『人文』第29号, 2005年8月
15. Tentative Approach to Relations between First Language and Second Language (1), 『鹿児島県立短期大学紀要 (人文・社会科学編)』第57号, 2006年12月
16. Tentative Approach to Relations between First Language and Second Language (2), 『鹿児島県立短期大学紀要 (人文・社会科学編)』第58号, 2007年12月

17. A Note on Neurophysiology (1) – Seeking the High Proficiency of Second Language Acquisition –, 『人文』第 33 号, 2009 年 6 月
18. 高大連携：地域との連携による authentic な国際交流を目指して－異文化コミュニケーション能力育成への国際交流導入の試み－, 『研究年報』第 42 号, 2011 年 3 月 (共著 土持かおり, 久木田美枝子)
19. A Preliminary Study of the Applicability of Neurolinguistic vs. Evolutionary Linguistic Factors to Second Language Acquisition (1), 『鹿児島県立短期大学紀要 (人文・社会科学編)』第 64 号, 2013 年 12 月
20. 人間本性論再考－スティーブン・ピンカーの所説を手がかりに－, 『研究年報』第 45 号, 2014 年 3 月 (共著 久木田美枝子, 上瀧真生)

<学会発表>

1. 短大レベルでの LL の効果とその限界, 語学ラボラトリー学会九州支部, 1982 年 7 月
2. 文法性と容認可能性との相違, 語学ラボラトリー学会全国大会, 1983 年 11 月
3. Complement on X Bar Theory, ハーバード大学大学院言語学科ワークショップ, 1986 年 11 月

<受賞>

2010 年 5 月 短期大学 教育功労者 文部科学大臣表彰